

## 第1回県北区域地域医療構想調整会議（合同会議） 議事要旨

- 1 日 時 令和7年11月14日（金） 午後6時から午後8時まで
- 2 場 所 オンライン会議
- 3 出席委員 委員19名中13名出席（代理出席者を含む。）

### 【大館・鹿角】

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
工 藤 透	大館北秋田医師会長	小 笠 原 真 澄	鹿角市鹿角郡医師会長兼大湯リハビリ温泉病院長
成 田 知	大館市立総合病院長	木 戸 忠 人	秋田労災病院長
代理：木村医長	大館市立扇田病院	代理：高杉次長	かづの厚生病院
高 橋 今 日 子	鹿角中央病院長		

### 【北秋田】

氏 名	役 職 等
相 澤 俊 朗	北秋田市民病院長

### 【能代・山本】

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
楊 国 隆	能代市山本郡医師会長	大 塚 博 徳	地域医療機能推進機構 秋田病院長
太 田 原 康 成	能代厚生医療センター病院長	加 藤 裕 治 郎	能代山本医師会病院長
大 淵 宏 道	森岳温泉病院長		

## 4 議事等

### (1) 報告事項

- ① 病床数適正化支援事業について
- ② 秋田大学医学部附属病院におけるHCU病床の設置について

#### 【事務局】

（資料により説明）

※委員からの意見なし

### (2) 協議事項

- ① 新たな地域医療構想の策定について

#### 【事務局】

（資料により説明）

#### 【能代厚生医療センター病院長】

・ 国の資料によると、都道府県から複数の取り組み案を提示し、議論した上で確定すると記載されている。これはいつ提示されるのか。

#### 【県医務薬事課】

・ 複数案の提示は来年度の予定である。本日は、資料で提示している県の考える来年度の新たな地域医療構想の方向性について意見いただきたい。

【大館市立総合病院長】

- ・人口減少によって患者数は減少してきているので、再編・集約化は必要だとは思う。
- ・集約化して症例数や手術件数を維持していかないと若い医師が来なくなってしまう。
- ・ただ、経営母体が異なることや集約化によって急性期病院が少なくなった時に住民の方たちがどうするのかという対策は大変難しいが、最終的には集約化は必要。

【秋田労災病院長】

- ・現時点でも当地域は病院の経営的にも厳しく、また、医師数も少ない状況なので、早急な対応が必要になってくる。
- ・県の方で強いリーダーシップを取っていただいて早急にやっていかなければいけない。

【北秋田市民病院長】

- ・当地域に総合病院は一つしかないのので、再編も集約も叶わないが、大館市立総合病院や能代厚生医療センターにお願いしていくしかない。
- ・今後、1番人口が減っていく地域なので、専門医数等も少なくなる。ますます近隣病院にお願いしていく機会が増えていくかと思う。

【能代厚生医療センター病院長】

- ・私も発言された先生方と同様で、逼迫した状況にあると思うし、再編や集約化の必要性は疑うべくもないこと。強力に進めていく必要があると思う。

【JCHO 秋田病院長】

- ・再編や集約は必要だということやなるべく早い方がいいということは委員間で共通認識であり、決まっている。
- ・結局ハードルはお金の部分になる。どこまで県や国が財政的支援をしていただけるかにかかっている。
- ・コンサルを入れるにしても莫大な費用がかかるし、また、経営が苦しくなっている中でも職員を守らなければいけない役目もあるので、どれだけ財政支援をいただけるかを示すべき。
- ・コンサルの入れ方としては、集約した場合に看護師をどれだけ移す必要があるか、どの診療科なら集約が可能かといったようにつっこんだ分析が必要。

【能代山本医師会病院長】

- ・今回の県の提示は本気度が出てきたかなという感じがする。
- ・私たちが敵対するのではなく、一緒に集約して医療関係をよくしていきたいと考えている。
- ・最終的な集約を考えた場合はどうしてもお金が必要なので行政から出していただきたい。

【大湯リハビリ温泉病院長】

- ・回復期や慢性期の立場からも再編・集約化は必要であり、急ぐべきだと思っている。
- ・当院はかづの厚生病院の機能の一部になってもいいし、公設民営化でもいいし、数にはこだわらない。
- ・地域にとって適切なリハビリ機能を提供できる体制であれば病床数を含めた当院の体制は全く問わない。

【大館市立扇田病院医長】

- ・当院としてはもう病床数は今減らしている段階で、集約化に向けて動いている過程かなと考えている。

【鹿角中央病院】

- ・かづの厚生病院についての鹿角市の意向と県の方向性について連携をとって進めて欲しい。

【森岳温泉病院長】

- ・地域の医療ニーズや症例数を踏まえ、医師の派遣について、秋田大学や近隣の大学と連携し秋田県を中心に考えていく必要がある。
- ・今までは秋田市では各総合病院が競合していて、医療資源の無駄遣いのような部分があったと思うが、今はそういうことは言っていない状況になってきおり、医療資源の効率化が必要。
- ・山本の3病院の連携が盛り上がってきていて、進んでいってくれることを地元は期待していると思う。

【大湯リハビリ温泉病院長】

- ・かづの厚生病院を核とする周辺の医療機関との連携というのは非常に必要になってくると思う。
- ・ただ、そういう中で鹿角市は住民も減っていくし、働く人も減ることを見据えてどういった医療提供体制を10年後まで残さなければならないのかというところを医師会も含めて、考えていかなければならない。

【能代山本医師会長】

- ・資料の13ページに示された構想区域案について、国の基準では拠点病院は1つでいいというお話だが、本県は面積が広いので、能代厚生医療センターを中心とした能代・山本地域の確立と、大館市立病院を核としたシステムの確立という方向でよいと思っている。

【北秋田市民病院長】

- ・当院はかなり前から大館や能代にお願いしないとやっていけない状況になっているので、当院が急性期拠点病院にはなれない。
- ・いろいろな科の常勤医がいなくなり、大学にお願いしても医師の派遣は難しい状況なので、我々は高齢者の救急や入院医療を中心に守っていきたい。

【JCHO 秋田病院長】

- ・高齢者が多くなっており、急性期の拠点病院だけでの完結は難しいので、退院させられる入院施設が絶対必要。
- ・現在の急性期の病院では病床を多く持っているが、病床が埋まらない状況にあり、その病床を回復期等の機能へ転換させたとしても、診療報酬上の観点から病院経営が難しい状況になっている。
- ・そのため、急性期の拠点病院は病床をたくさん持っている必要は逆になく、転院するシステムをうまく取っていかねばならないと個人的に思っている。

【曾根アドバイザー】

- ・再編の必要性について、将来像はできるだけ早い時期に決めていく必要がある。
- ・ハードルはお金なのかなと思っている。